

考えたい！  
ゲンダイのモンダイ。

予約  
不要

# 人生 講座

LIFE DESIGN LECTURE

映画の詳細は

チラシ裏面をご確認ください !!

四元良隆×阿武野勝彦

トーク



負ケテタマルカ!!

映画上映

四元 良隆氏



よつもとよしたか：1971年鹿児島県頴娃町生まれ。早稲田大学卒業後、1994年鹿児島テレビに入社。ディレクター、社会部記者、報道ニュースデスクを歴任。現在、ドキュメンタリー監督、プロデューサー。

主なドキュメンタリー作品は「負ケテタマルカ!!」「警察官の告白—鹿児島県警情報漏洩事件を問う—」「テレビで会えない芸人」など受賞歴多数。

阿武野 勝彦氏



あぶのかつひこ：1959年1月、静岡県伊東市生まれ。同志社大学卒業後、1981年東海テレビ入社。制作したドキュメンタリーは60本。2011年より「ヤクザと憲法」「さよならテレビ」「人生フルーツ」など16作を劇場公開。個人賞に、全国映連賞2025特別賞・日本記者クラブ賞、芸術選奨文部科学大臣賞、放送文部基金賞など。現在「オフィス むらびと」代表。著者に『さよならテレビ ドキュメンタリーを撮ること』(2021年、平凡社)。

HIGASHIBETSUIN

東別院

真宗大谷派名古屋別院

お東ネット

検索

www.ohigashi.net



参加費  
予約不要

# 1,000円

※大学生以下無料・相談員参加費免除

会 場 / 名古屋別院 対面所  
名古屋市中区橘2-8-55

アクセス / 地下鉄名城線「東別院」駅下車4番出口より、西に徒歩約5分。  
お車でお越しの場合は、東別院の無料駐車場をご利用ください。

主 催 / 真宗大谷派名古屋別院(東別院)

お問合せ / TEL 052-331-9576(東別院会館・社会事業部)

2026年  
3月  
14日(土)

時 間

14:00 - 16:30

映画上映

14:00 - 15:45

トーク

15:50 - 16:30

— 四元良隆・阿武野勝彦



# 何なんだろう… 人間、人生つて。

7歳で小脳に悪性腫瘍が見つかった  
本田紘輝くん。170万人に1人の確  
率といわれる難病と向き合いなが  
ら、病院内の学級で、絵を描くこ  
とに出合う。

「ドラゴンみたいに強くなりたい」  
ママ・奈穂美さん、パパ・信作さん、  
そして病院スタッフに支えられな  
がら、毎日を精一杯に生き、筆を  
とり続けた。

紘輝くんはママに聞いかける。

「考えてみると、何なんだろう…  
人間、人生つて… 人生が終わっ  
て、後は、どうなるんだろう…」  
ママは、その言葉を静かに受け止  
めた。

生きることの意味を絵に託した  
少年と、その家族を追った20年間  
に及ぶ『命の記録』。

## 本田紘輝くん

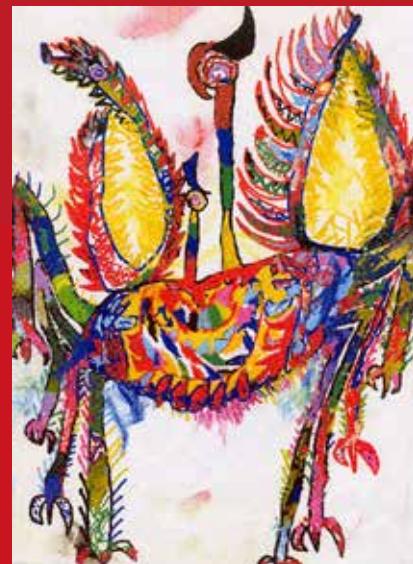
異変が起きたのは7歳(小学校1年生)の時。脳腫瘍、「髓芽腫(すいがしゅ)」と診断され、そこから病気と闘う壮絶な日々が始まった。限りある「いのちと懸命に向かいながら、苦しみ、哀しみ……そして希望を「絵」に込めて、命を懸けて描き続けた。「絵」は全部で30作品。圧倒的な迫力で観る人の心を揺らしている。少年は多くの人たちから支えられて生きた。……そして彼の存在が、今度は、見知らぬ誰かの支えになっていく。

虚空を見つめながら呟いた紘輝くんの言葉に胸が震える。

「何なんだろう……人間、人生って——。」

## 本田紘輝 略歴

1995年	8月21日	鹿児島市に誕生
2002年	4月	小学校入学
2004年	5月	鹿児島市立病院に脳腫瘍のため入院、手術 抗がん剤治療 10ケール 放射線治療3カ月 院内学級に転入
2005年		末梢血管幹細胞移植
2005年	12月	退院
		●「大切な人(ママ)」 第6回マルチアートデザインコンテスト グランプリ
		●「僕の願いがかなうかなーはるかなる島の物語ー」 第49回西日本読書感想画コンクール 特選
		●「負ケテタマルカ!!」CG画 鹿児島CGコンテスト Drink'05 グランプリ
		●「うみ」 第52回二科ジュニア展 入賞
2006年	11月	再発 入院 抗がん剤・放射線治療
		●「オレンジたんけんたい」 第7回マルチアートデザインコンテスト ノンデジタルアート部門 優秀賞
		●「青い島」 NHK鹿児島新会館落成記念 かごしま未来予想図賞
		●「海の物語(いのち)」 鹿児島CGコンテスト Drink'06 グランプリ
		●第8回KTSアートマーケットにて作品展示(霧島アートの森)
2007年	1月	鹿児島市立病院退院 自宅療養
	9月	再入院
2008年~	12月28日	永眠
		鹿児島、北海道、沖縄、福岡、熊本、神戸、青森、秋田などで 「本田紘輝作品展」を開催



本田奈穂美さん(ママ)



余命、残り僅かと宣告された息子・紘輝くんに、深い悲しみの中で寄り添い続けた。希望を失わない。「負ケテタマルカ、ですね。」そして絶体絶命に陥ったママの命が、紘輝くんから救われるという奇跡が起こる。「紘輝の生きたかった明日が、今を生きている皆さんのが今日です。」息子の描いた絵に込められた想い……その命のメッセージを、多くの人々の心へ届けたい……。  
「紘輝はずっと生きています。」やわらかな笑顔のママの頬に、涙がツ——っとこぼれ落ちた。

本田信作さん(パパ)



ママと一緒に鹿児島市内で小料理店を営み、家族を支えている。1人息子・紘輝くんとは親しい友達のような仲。どんなに辛く苦しい時も、いつも穏やかに家族を見守っている。「2人(紘輝くんとママ)を揃んで、入院病棟の窓から飛び降りよう何度も思いました。でも……しなくて良かった。」病室の窓を見上げる夜の闇の中で、パパの目が潤んでいる。

時が流れ春、桜吹雪が優しく舞う散歩道を、パパとママが連れ立って歩いてくる。



負ケテタマルカ!! 公式サイト